

図書館だより

目次

現図書館四十周年にあたって	—新海 邦治	1
展示「子どもと絵本を楽しむための図書ガイド」	—百々佑利子	2
日本女子大学図書館関係略年表(1994.4~2004.3)		4
統計で見る図書館サービスの歩み	—鈴木 学	7
平成16年度夏期スクーリング開館について	—田代 陽子	12



現図書館四十周年にあたって

新海 邦治

1964年に第6代学長上代タノ先生によって、当時はまだ珍しかった開架式の図書館が目白キャンパスに新設されてから、今年で満40年になる。今回の「図書館だより」はその記念特集号である。

前回の三十周年記念に当る1994年当時、本学では人間社会学部、理学部が開設された後をうけて、大学院の新增設が相次いでおり、図書館もそれに伴う諸問題の処理に当たっていた。また図書館の位置づけに変化をもたらすことになる部課長制が図書館に導入されたのもその頃、1993年のことであった。そして四十周年を迎えた今日、大学を取りまく状況は厳しさを増し、中には改革の名のもとに学問や文化の本質を顧みる事を忘れて猪突する大学も現れて来た。私たちの大学、私たちの図書館はいかにあるべきか、少し立ち止って考えることが必要ではあるまいか。

去る6月中旬、本学の西生田キャンパスを会場に開催された私立大学図書館協会東地区部会総会の際に、加盟校の館長会が持たれた。その席で紹介された館員のあり方を巡る二つの事例は好対照を成していて、私には印象的だった。一つは司書資格の有無とは無関係に職員の人事異動を自由に行っている大学の例であり、もう一つは司書資格を重視し、館員に研究者と同等の専門性を要求して研修に力を尽くしている大学の例である。図書館にはさまざまな種類のものがあり、それぞれの役割も異なるが、大学図書館は教員や学生の研究と勉学活動に寄り添って、これを支援する役割を担っている。前者の事例は司書の専門性を無視ないし軽視する点で、大学図書館のあり方にそぐわないものだろう。幸いにして本学は、今のところ後者の部類に近い。

IT化の進行も現時点での大きな問題である。人間社会学部創設以来、本学図書館でもコンピューターの利用が拡がり、資料検索等にその威力を発揮している。図書館には学術情報センターとしての役割が期待されるところから、今後とも一層の強化が必要であろう。しかしまた、コンピューターそのものが使い捨ての道具であるように、必要ではあっても絶えず古くなる性質の情動的資料と、知的遺産として永い生命を持つ資料とを弁別し、資料の更新と保存に適確に対処することが図書館には求められる。そのための洞察力と判断力はコンピューターにはではなく、司書の専門性に委ねられるべきだろう。大学改革の流れの中で大学の質が問われることの多い現在、図書館の質を維持し高めてゆくことは、大学の本質に関わる問題である。大学の質と図書館の質は相関するだろうし、図書館の質は司書の質を反映するだろう。館員と共に改めて自戒したいと思う。

(図書館長・文化学科教授)

展示「子どもと絵本を楽しむための図書ガイド」

百々 佑利子

図書館玄関ホールにおいて、2004年8月9日（月）より11月30日（火）まで、展示「子どもと絵本を楽しむための図書ガイド」を行っています。

本を読む子を育てる、それは私たち大人の願いであるとうじに、私たちに課せられた責任でもあります。親や保育者そして教師は、本を読む子を育てるために、さまざまに努力をしています。絵本の読みきかせをする、お話を語ってきかせる、ストーリーセッションの時間をもつ、などです。

「本と子ども」あるいは「子どもの読書」をテーマにした手引き書もたくさん出版されています。この事実は、幼いときから良い本に親しみ、読書習慣を身につけることが、いかに重要かが認識されるようになってきたことのあらわれでしょう。今回の展示のために、「本とともにある子育て」に役立つ本を選び、さらに多くの手引き書をおさめたリストを作りました。リストにある本を、図書館でさがして読んでみて下さい。何冊かでも、皆さんの求めを満たす本が見つければ幸いです。

ニュージーランドの読書教育家のドロシー・バトラーは、『5歳から8歳まで — 子どもたちと本の世界』を書きました。小学校低学年の子どもの成長と読書について語り、およそ600冊の本の紹介をしています。6章「読む力を身につけるために」のなかで、バトラーはこう述べています。「脳に、読む能力をそなえている特定の部分などありません。あるはずがないのです。読むことは、歩行のように、生まれつきもち合わせている能力ではありません。人間が、書くことと並行して、発達させた力です。人同士の伝達の手段が、これで一つふえました。」そう、私たち人間は、「書く」という技と並行して「読む」という技を発達させてきました。人間がほかの動物といちじるしく異なるのは、この技を発達させる能力がある点です。私たちの子どもたちが、他ならぬ人間として成長していくためには、この能力を保ち、技をさらにみがいていかなければなりません。そのために、リストにある手引き書は助けとなってくれるでしょう。

「読む力」はだれでももっているものでしょうか。バトラーからまた引用しましょう。「子どもは、自分の話しことば、および目で見えておぼえているものすべてを総動員し、読むという作業に役立てます。想像力、記憶している語彙、意味をなすことばを並べようとする知識、などです。その子は非常に早い時期に、目が行を追って動くにつれて、意味が頭にそそぎこまれて、はじめて読んでいるといえる、ということを経験します。そしてこの技術を、実践します。誰でも身近にいる人に質問を発し、結論を引き出します。」読む力を育むには、おぼえていることや語彙が豊富であることが肝要です。本を読むこと自体が、子どもの記憶にたくさんのことばを蓄えることにつながります。

子どもが質問をしたり、結論を引き出したるためには、子どもは「考え」なければなりません。そのさいには、言語を用います。言語は思考の道具なのです。私たちは、子どもが豊かな言語を獲得し、深く考える人間になるために本は役立つ、と知っています。本は言語に根ざしているのですから。けれども私たちは、子どもが深く考えるようになるためであっても、むずかしくて辛いことを毎日実行するようにと強制したくはありません。子どもは「遊び」を糧として育つべきなのです。そして本は、何よりもたのしい「遊び体験」を読む人にさせるものでなくてはなりません。リストにある手引き書は、大人、子どもを問わず、毎日の生活に本を手にしてゆかいなひとときを過ごすことを目指しています。その手助けに手引き書はなるだろうと確信しています。

本のある日々は、親子の絆を強くしつつ、子どもを自立の時にむかって準備させます。最後に、とくに親御さんに申しあげたいことがあります。いちばんよい「本へのいざない」は、親のあなた自身が、何もかも忘れて本を読みふけり、本からすばらしく大きな喜びを得ている、そんなようすを子どもに自然に見せることです。本棚の真ん中に子どもの本だけでなく、あなたの好きな本を並べてください。親を見ながら子どもは、世界でいちばん好きなあなたと同じ「本とともに歩む人生」を自分も歩みたいと思うようになるでしょう。そうなればもう手引書も不要になるでしょう！

（児童学科教授）



今回の展示では、図書館所蔵の図書は貸出できるようにするために、百々佑利子先生個人の蔵書をお借りして38冊展示しています。“子どもと絵本を楽しむための図書ガイド”として、百々先生作成の107冊の図書リストのパンフレットもありますので、ご利用ください。

<展示図書一覧>

※所蔵 目：図書館目白 西：図書館西生田 通：通信 児：児童学科 日：日本文学科 (2004年10月現在)

書名	著編者名	出版者	出版年	所蔵
赤ちゃんの本棚 0歳から6歳まで	ドロシー・バトラー (百々佑利子 訳)	のら書店	2002	目 児
「遊び」の探求 大人は子どもの遊びにどうかかわりうるか	小川博久	生活ジャーナル	2001	目 西
イギリス童話の星座	内藤里永子, 吉田映子 (訳詩)	大日本図書	1993	目 西
えほんのせかい こどものせかい	松岡享子	日本エディタースクール出版部	1987	目 通 児
絵本の読み聞かせと活用アイデア56	石井光恵, 荻原敏行	明治図書	2003	目
絵本はいかに描かれるか (表現の秘密)	藤本朝巳	日本エディタースクール出版部	1999	目 西
幼ものがたり	石井桃子	福音館書店	1981	目
おとぎの国のモード	坂井妙子	勁草書房	2002	目 西
クシュラの奇跡 140冊の絵本との日々	ドロシー・バトラー (百々佑利子 訳)	のら書店	1984	目 西 通 児
クライン博士の子育てに成功する10の鍵	ビクター・B・クライン (百々佑利子 訳)	あずさ書房	1982	
グリム童話の誕生 聞くメルヒェンから読むメルヒェンへ	小澤俊夫	朝日新聞社	1992	目 西
子どもが孤独にいる時間	エリーズ・ポールディング (松岡享子 訳)	こぐま社	1988	西
子どもにもっとおはなしを(朝松戸市おはなしキャラバンの歩いた道)	朝松戸市おはなしキャラバン	大月書店	1990	目 児
子どもの本との出会い	鳥越信	ミネルヴァ書房	1999	目
子どもの本の書きかた	ジョン・エイキン (猪熊葉子 訳)	晶文社セレクション	1986	西 児
子どもはどのように絵本を読むのか	ヴィクター・ワトソン&モラグ・スタイルズ (岩本誠剛 訳)	柏書房	2002	目
子ども・本・家族	ドロシー・バトラー (百々佑利子 訳)	のら書房	1994	目 西
子どもを本好きにする50の方法	さくまゆみこ	柏書房	2004	目
児童虐待 その現況と刑事法的介入	林弘正	成文堂	2000	目 西
児童文学のなかの母親	百々佑利子	くもん出版	1988	目
児童文学を英語で読む	百々佑利子	岩波書店	1999	
障害児の読書教育 ちえ遅れの子どもたちへの実践	勝尾外美子, 菊池澄子	国土社	1989	
新・生活のなかの図書館	関口礼子	学文社	2000	目
テレビに子守をさせないで	岩佐京子	水曜社	1988	目
とげのあるパラダイス 現代英米児童文学作家の発言	エドワード・ブリッセン (神宮輝夫 訳)	偕成社	1982	目 通
日本の子どもの読書文化史	飯千陽	あずさ書店	1996	目
パーゼルより 子どもと本を結ぶ人たちへ	皇后美智子	すえもりブックス	2003	目
母という経験 一自立から受容へ 少女文学を再読して	宮迫千鶴	平凡社	1991	目
福岡県 筑後ん昔ばなし	松谷みよこ	松谷みよこ民話研究室	1998	
本の美術誌	中川素子	工作社	1995	目 西
昔話が語る子どもの姿	小澤俊夫	古今社	1998	目
物語とふしぎ	河合隼雄	岩波書店	1996	目 西
読む力を育てる -マーガレット・ミークの読書教育論	マーガレット・ミーク (こだまともこ 訳)	柏書房	2003	目
5歳から8歳まで -子どもたちと本の世界-	ドロシー・バトラー (百々佑利子 訳)	のら書店	1988	目 児
C D Book 南吉と賢治 -かよいあう心	松村春生, 西川小百合	さ・え・ら書房	1999	
C D Book 賢治と南吉 -ひびきあう心	松村春生, 西川小百合	さ・え・ら書房	1999	
C D Book 朗読を楽しもう	松村春生	さ・え・ら書房	1999	
Children's Books in England	F.J.Harvey Darton	Cambridge University Press	1982	目

日本女子大学図書館関係略年表（1994.4～2004.3）

『日本女子大学図書館だより』No.50（1982.2.1発行）に1901年4月～1981年11月の図書館略年表が掲載され、『日本女子大学図書館だより』No.90（1994.6.23発行）に1980年4月～1994年3月の図書館略年表が掲載されている。今回は、その後10年間＜1994年4月～2004年3月＞の図書館略年表を作成した。

年	事	項
1994 (平成6)	4.1 宮本美沙子学長・理事長。石川松太郎館長兼事務部長事務取扱。4.14 目白・西生田相互利用金曜日に宅急便利用開始（火曜日学内便以外）。4.25 図書館部課長会第1回：木製椅子のリフォームについて他（以後'95.3.15第22回）。4.25 JWULIS委員会第1回：目録コーナーレイアウトの検討について他（以後'95.3.16第9回）。4.26 図書選定委員会第1回：平成16年度図書資料予算配分他（以後'95.3.14第12回）。5.7 現図書館開館30周年記念・歴代図書館長座談会。5.12 図書館運営委員会第1回：平成6年度予算について他（以後'95.3.6第5回）。5.17 上代タノ平和文庫運営委員会出席（以後'95.1.17第4回）。5.21 日本女子大学図書館友の会第29回総会出席。6.16 家政、文学部研究室書架状況調査・史学科（以後6.21国文学科、6.29 英文学科、7.5 住居学科、7.12 家政経済学科、7.19 児童学科）。6.23 『日本女子大学図書館だより』第90号（現図書館開館30周年記念特集号）発行。9.20 『平成5年度図書館年次報告』発行。10.21 現図書館開館30周年記念講演会『シンポジウム夢のある図書館づくり』（日本女子大学）開催。12.12 図書館棟外装改修工事開始（目白、3.31迄）。	
1995 (平成7)	1.20 『日本女子大学図書館だより』第91号（現図書館開館30周年記念特集号Ⅱ）発行。1.27 目白・西生田便金曜日増便開始。2.22 図書館管理システム本稼働プログラムインストール。3.1 第2回全体会：学部学生図書貸出冊数について（学部3年生3冊から5冊・期間1か月とする）他。3.9 農家生活研究所，児童研究所所属図書資料の措置開始（3.31迄に搬出，業者委託）。3.31 『日本女子大学継続購入逐次刊行物目録1995年1月現在』発行。3.31 石川松太郎館長退任。	
	4.1 新図書館長西村圭子教授就任兼事務部長事務取扱。4.5 図書所蔵データの学術情報センターオンライン入力を開始。4.26 JWULIS委員会第1回：OPAC講習会について他（以後'96.3.18第11回）。4.27 図書館部課長会第1回：本学学部紀要及び大学院紀要に関する業務の見直しについて他（以後'96.3.13第13回）。4.27 図書選定委員会第1回：旧研究所図書資料措置について他（以後'96.3.14第11回）。5.16 上代タノ平和文庫運営委員会出席（以後'96.3.12第4回）。5.20 日本女子大学図書館友の会第30回総会出席。6.1 図書館運営委員会第1回：学部紀要業務について他（以後'96.1.26第3回）。6.12 ブラウジング用テーブル，椅子増設（西生田）。6.30 『平成6年度図書館年次報告』発行。7.19 展示用パネル設置（西生田）。8.10 参考図書書架及びカウンター後部閲覧用書架増設（西生田）。11.20 西生田生涯学習センター受講者の図書館利用開始。	
1996 (平成8)	4.1 西村圭子館長兼事務部長事務取扱。4.1 目白2階閲覧室側板撤去工事（4.4迄）。4.3 JWULIS委員会第1回：目録コーナーレイアウトについて他（以後'97.3.18第19回）。4.11 図書館部課長会第1回：目白1階開室時間の延長について他（以後'97.3.22第13回）。4.25 図書選定委員会第1回：平成8年度図書資料予算配分他（以後'97.3.13第10回）。5.18 日本女子大学図書館友の会第31回総会出席。5.21 上代タノ平和文庫運営委員会出席（以後'97.3.18第5回）。6.6 図書館運営委員会第1回：平成8年度夏季休館中開閉館日程について他（'97.3.11第4回）。6.10 森戸文庫を6階書庫から館長室へ移管収納。7.24 大学基準協会相互評価「点検・評価報告書」原稿を提出。7.25 新OPACコーナー設置のためカード目録ケースを移動（目白）。7.26参考図書用木製壁面書架設置（目白）。8.19 Alpha ハード据付調整。8.27 VAXからAlphaへのデータ転送，更新。9.24 新システムAlpha本稼働，Alpha上で業務開始。9.27 玄関ホール展示：日本文学科企画「上代文学」開始。11.1 目白1階夜間開室時間延長（月・水・金，18:50迄）。12.22 ダクト清掃工事（12.27迄，目白）。	
1997 (平成9)	1.16 玄関ホール展示：日本文学科企画「中古文学」開始。2.12 第3回全体会：貸出冊数について（学部学生全て5冊・期間1か月とする）他。3.18 キャレル92台リフォーム終了（目白）。	
	4.1 西村圭子館長兼事務部長事務取扱。4.14 図書館部課長会第1回：平成9年度臨時勤務者採用計画他（以後'98.3.16第14回）。4.17 JWULIS委員会第1回：OPAC講習会計画他（以後'98.3.17第9回）。4.21 図書館総合計画委員会第1回：書架スペース対策について他（以後'98.3.17第15回）。4.24 図書選定委員会第1回：物質生物科学科からの保管転換図書について他（以後'98.3.12第9回）。5.17 日本女子大学図書館友の会第32回総会出席。5.22 図書館運営委員会第1回：人間社会学部学科長会からの依頼事項の件他（以後'98.2.24第5回）。5.22 上代タノ平和文庫運営委員会出席（以後'98.1.20第4回）。6.4 玄関ホール展示：日本文学科企画「中古文学」開始。6.12 私立大学図書館協会平成9年度東地区部会総会（日本女子大学西生田成瀬講堂）。7.26 参考図書上置書架増設（目白）。8.7 西生田1階新聞室書架増設，2階入口ブックポストサイン貼付，3階窓面遮光フィルム貼付。8.21 西生田3階窓面書架増設。9.1 目白1・2階照明改善工事及び天井工事（9.17迄）。11.18 玄関ホール展示：日本文学科企画「中世文学」開始。12.1 『日本女子大学図書館だより』第100号記念特集号発行。	

1998 (平成10)	3.13 閲覧机29台リフォーム終了(目白)。
	<p>4.1 西村圭子館長, 田中功教授事務部長新任。 4.1 閲覧用カード目録ファイルの中止。 4.4 目白1階夜間開室時間延長(月~金, 18:50迄)。 4.16 館長部課長会第1回: 社会福祉関係図書移管に関する人間社会学部長要望文書回答の件他(以後'99.3.15第13回)。 4.23 図書館総合計画委員会第1回: 倉庫委託の方針について他(以後'99.3.15第10回)。 4.27 JWULIS委員会第1回: 和洋図書の閲覧カード目録新規作成中止に関するお知らせの件他(以後'99.2.17第8回)。 4.28 図書選定委員会第1回: 平成10年度図書資料予算配分案他(以後'99.3.16第11回)。 5.7 利用者用マイクロリーダー・プリンターを新機種に交換(目白)。 5.16 日本女子大学図書館友の会第33回総会出席。 5.19 上代タノ平和文庫運営委員会出席(以後'99.1.19第4回)。 6.10『平成9年度図書館年次報告』発行。 6.20 OPACコーナーレイアウト変更(西生田)。 6.25 図書館運営委員会第1回: 平成9年度図書館年次報告他(以後'99.2.25第4回)。 7.29「日本女子大学図書館の現状について<施設・設備編>」を法人へ提出。 8.27 西生田1階雑誌用壁面書架, 2階参考図書用書架増設。 8.31 目白1階電動式集密書架更新工事開始(9.11迄)。 9.18参考コーナー壁面木製書架設置(目白)。</p>
1999 (平成11)	2.20 図書館棟エレベーター改修工事開始(3.31迄, 目白)。 3.10 閲覧用椅子89脚リフォーム終了(目白)。 3.31 西村圭子館長退任。
	<p>4.1 新図書館長出渕敬子教授就任, 田中功事務部長。 4.1 ケーブル工事, OPACレイアウト変更(西生田)。 4.22 館長部課長会第1回: 個人研究費による購入図書の扱いについて他(以後'00.3.7第9回)。 4.22 図書館総合計画委員会第1回: 目白1階集密書架増設の可否検討他(以後'00.3.22第8回)。 4.26 図書選定委員会第1回: 平成11年度図書資料予算配分案他(以後'00.2.28第9回)。 4.27 JWULIS委員会第1回: 学生証のIDカード化に伴う図書館利用カードのあり方について他(以後'00.2.21第8回)。 5.15 日本女子大学図書館友の会第34回総会出席。 5.18 上代タノ平和文庫運営委員会出席(以後'00.3.14第4回)。 5.27 図書館運営委員会第1回: 平成11年度予算について他(以後'00.1.20第4回)。 5.31 玄関ホール展示: 浅野三平先生企画「十八世紀の浄瑠璃正本」開始。 6.15館長室冷暖房機設置(目白)。 9.2 電動式集密書架Aブロック改修工事(9.3迄, 目白)。</p>
2000 (平成12)	1.1『日本女子大学継続購入逐次刊行物目録 1999年12月現在』発行。 2.19 エレベーター運行時間サインスタンド設置(目白)。 2.22 西生田1階利用者用複写機にカードベンダー機設置。
	<p>4.1 出渕敬子館長, 田中功事務部長。 4.4 館長部課長会第1回: 早稲田大学学生交流に関する件他(以後'01.3.13第11回)。 4.18 早稲田大学学生交流の図書館利用に関する打ち合わせ会(早稲田大学図書館)。 4.25 図書選定委員会第1回: 西脇順三郎先生原稿の扱いについて他(以後'01.3.19第11回)。</p>
2001 (平成13)	3.5 全館キャレル席用電気スタンド138台新規取替設置(目白)。 3.8 玄関ホール展示: 日本文学科企画「桜楓の源流一桜の世界」開始。 3.23 学術情報センター VTSSLiblinkのインターネットへの切り替え作業実施。 3.31 宮本美沙子学長・理事長退任。
	<p>4.1 後藤祥子学長・理事長就任。 4.1 出渕敬子館長, 田中功事務部長。 4.12 館長部課長会第1回: 5大学学生交流に関する図書館利用について他(以後'02.3.18第12回)。 4.12 図書館総合計画委員会第1回: 文学部移転後の目白図書館棟の利用計画について他(以後'02.3.18第8回)。 4.24 図書選定委員会第1回: 北京外国語大学内北京日本学研究中心受寄贈資料の検討他(以後'02.3.13第9回)。 4.24 JWULIS委員会第1回: 学術情報ネットワーク接続変更作業報告他(以後'02.2.22第7回)。 4.27 f-Campus 図書館長懇談会(早稲田大学中央図書館)。 4.27 事務用パソコンFLORA310LV 26台設置(目白), 同24台設置(西生田)。 4.29 サーバ環境設定(丸善, コンパック社, 4.30迄)。 5.1 LANケーブル工事(目白, 5.2西生田)。 5.3 NTT切替工事(5.4迄)。 5.5 クライアント環境設定(目白, 5.6西生田)。 5.7 新電話番号使用開始。 5.7 ネットワーク変更後の業務動作確認作業。 5.12 日本女子大学図書館友の会第36回総会出席。 5.14 会計検査院実地調査(5.16迄)。 5.22 玄関ホール展示: 日本文学科小川靖彦先生企画「わたしたちの創る日本文学の教科書」開始。 5.24 図書館運営委員会第1回: 文学部移転後の目白図書館棟の利用計画について他(以後'02.3.14第4回)。 6.5 iLiswave CAT, ILL関連設定作業(6.6迄, 目白)。 6.7 iLiswave CAT, ILL関連設定作業(西生田)。 6.23『平成12年度図書館年次報告』発行。 6.30 田中功事務部長退任。 7.1 上村美沙子事務部長新任。 7.17 上代タノ平和文庫運営委員会出席(以後'02.3.12</p>

2002 (平成14)	<p>第4回)。 7.26 目白1階図書館学習室閉室。 7.30 新メールシステム設定。 8.30 目白1階改修工事開始(9.17迄)。 9.4 目白1階～3階蛍光灯器具交換工事(9.5迄)。 9.6 参考書架転倒防止固定及び三角サイン取付作業(西生田)。 9.19 図書館学習室を1階閲覧室に変更,共同研究室A・BをAVブースへ変更使用開始(目白)。 10.5 テレビデオ1台,ビデオ1台設置(西生田)。 10.19 西生田2階窓遮光フィルム貼り作業。 10.23 新規返却ポスト設置(目白)。 11.13 玄関ホール展示:「上代タノ平和文庫」創設30周年記念展(図書館友の会協力)開始。 12.15 日本女子大学創立100周年記念特別展示「21世紀の教育をひらく」第2期「女性史をひらく一本学図書館所蔵の貴重図書より」(成瀬記念講堂)開始(12.19迄)。 12.20 目白図書館棟改修図最終回答を施設課長へ提出。 12.20 タイムカプセルに封じ込める物品を選定し提出(12.21百年館定礎石埋め込み)。</p> <p>2.25 目白1階カウンター用FAX付電話設置。 2.28 目白図書館棟4階～6階改修工事開始(平成14年度迄継続)。 3.6 目録カードケースを2階から1階へ配置換移動,事務用複写機を新機種へ取替え(目白)。 3.7 参考図書書架増設(3.8迄,目白)。 3.11 図書館友の会事務室移転(5階東南角へ)。 3.27 入館システム機器, BDS装置設置(3.28迄,西生田)。 3.28 入館システム機器設置(目白)。</p>
2003 (平成15)	<p>4.1 出淵敬子館長, 上村美紗子事務部長。 4.2 iLiswave設定へ本稼働移行作業(4.3迄)。 4.15 館長部課長会第1回:平成14年度業務委託計画・研修他('03.3.14第10回)。 4.16 玄関ホール展示:日本文学科小川靖彦先生企画「わたしたちの創る日本文学の教科書」開始。 4.22 図書選定委員会第1回:玄関ホール展示「森戸文庫」について他(以後'03.3.17第13回)。 4.25 図書館総合計画委員会第1回:文学部移転後の目白図書館棟の利用計画,「日本女子大学図書館の現状について<業務内容編>」の検討(以後'03.3.18第10回)。 5.1 夜間開館時間延長開始,月～金曜日20:00迄(目白)。 5.7 図書館入館システム運用開始(西生田,5.8目白)。 5.11 土曜日開館時間延長開始,17:00迄(目白,西生田)。 5.15 日本女子大学図書館友の会第37回総会出席。 5.20 玄関ホール展示:「森戸文庫」開始。 5.23 図書館運営委員会第1回:入館システム導入について他(以後'03.1.23第4回)。 5.31 JWULIS委員会第1回:iLiswave設定へ本稼働移行作業の件(以後12.18第3回)。 6.11 f-Campus図書館長懇談会(日本女子大学)。 7.16 上代タノ平和文庫運営委員会出席(以後'03.3.11第3回)。 8.26 書架増設工事開始(1階,5階,6階)(8.30迄,目白)。 9.2 目白4階壁撤去工事開始(9.6迄)。 9.9 目白4階書架増設開始(9.10迄)。 9.9 目白5階多目的室LANケーブル工事,OPAC用PC27台・事務用ノートPC4台環境設定(9.11迄)。 9.13 OPAC用PC5台・事務用ノートPC1台環境設定(西生田)。 9.20 目白5階窓ブラインド取付工事(9.21迄)。 10.17 目白4階・5階増設分のキャレル・椅子32組設置。 10.28 目白4階・5階増設分のキャレル席用電気スタンド50台設置。 12.2 和装本移動作業(旧6階第2書庫→新和装本室)(9.9迄,目白)。 12.16 玄関ホール展示:史学科伊藤寿和先生企画「貴女もなれるか『目白と雑司ヶ谷の達人』!!!」開始。 12.20 「日本女子大学図書館の現状について<業務内容編>」を法人へ提出。</p> <p>1.8 AV資料収納棚2台設置(西生田)。 1.17 大型本和書移動作業(3階→4階)(2.15迄,目白)。 1.27 蔵書点検用バーコードスキャナ10台納品。 2.24 上代タノ平和文庫移動作業(4階→5階)(3.3迄,目白)。 3.5 洋雑誌移動作業(1階→5階)(3.11迄,目白)。 3.11 利用者用カラーコピー機1台,モノクロコピー機1台増設(目白)。 3.12 新三号館既設書架,荷物棚を図書館6階へ移設(3.13迄,目白)。 3.12 利用者用カラーコピー機1台増設(西生田)。 3.20 『平成13年度図書館年次報告』発行。 3.31 出淵敬子館長退任。</p>
2004 (平成16)	<p>4.1 新図書館長新海邦治教授就任, 上村美紗子事務部長。 4.3 目白図書館棟5階使用開始,5階カウンター新規設置。 4.22 館長部課長会第1回:平成15年度業務委託計画他(以後'04.3.15第11回)。 4.28 図書選定委員会第1回:図書委員会委員の図書選定委員会への出席について他(以後'04.2.24第9回)。 4.30 貴重書室用スチール棚搬入設置。 5.20 図書館総合計画委員会第1回:文学部移転後の目白図書館棟の利用計画について,「日本女子大学図書館の現状について<業務内容編>」の検討(以後'04.3.18第7回)。 5.22 図書館運営委員会第1回:図書選定委員会への図書委員の出席に関する件他(以後'04.2.12第4回)。 5.23 JWULIS委員会第1回:WebOPACサーバリプレースについて他(以後'04.2.23第4回)。 6.2 アフガニスタン関係資料展示開始(西生田)。 6.2 機械室用プリンター1台設置(西生田)。 6.16 平成15年度f-Campus図書館長懇談会(学習院女子大学)。 6.16 玄関ホール展示:「アフガニスタン」開始。 7.8 上代タノ平和文庫運営委員会出席。 7.11 目白6階貴重書室改修工事。 7.14 窓ブラインド取付工事(4階西側・6階,目白)。 7.26 Alpha server DS10本設置,WebOPACサーバリプレース本稼働へ移行。 7.30 エプソンプリンタ2台搬入・据付(西生田,7.31目白1台)。 8.25 目白図書館棟4階南側改修工事開始(9.6迄)。 8.28 階段,踊り場床タイル張替工事(9.3迄,目白)。 9.24 事務室内資料・備品類の6階第2書庫への移動(9.26迄,目白)。 10.1 目白4階共同研究室(A～D4部屋)利用開始。 10.23 WebOPACサーバリプレースシステム開発完了。 11.11 玄関ホール展示:住居学科鈴木健次先生企画「日本女子大学目白地区建物ウォッチング」開始。 11.13 公認会計士図書館実地調査。 11.20 事務用複写機新機種変更設置(西生田)。 12.1 コピーカードの領収書発行開始(目白)。 12.3 ラインプリンタリプレースシステム開発完了。</p> <p>2.13 目白4階南側窓ブラインド取付工事。 2.24 目白5階ビデオコーナーの電源工事。 3.20 『平成14年度図書館年次報告』発行。</p>

統計で見る図書館サービスの歩み

この頁では、現図書館開館40年目にあたり、およそ10年間を中心に図書館の動きを、利用者サービスの面から統計をもとに概観する。なお、統計の数値は西生田図書館の開館時期に合わせたものとなっていて、開館からの動きを捉える試みもある。また、西生田図書館の開館にあわせて図書館業務システムが導入された。この統計は、システム化以降の統計と見ることもできよう。

1. 入館者数

平成2年に西生田キャンパス開設に伴い西生田図書館が開館した。表から数値を見る限りでは、目白ではおよそ14万人が、西生田では8万人弱が年間の入館者数として定着した数として捉えることができよう。

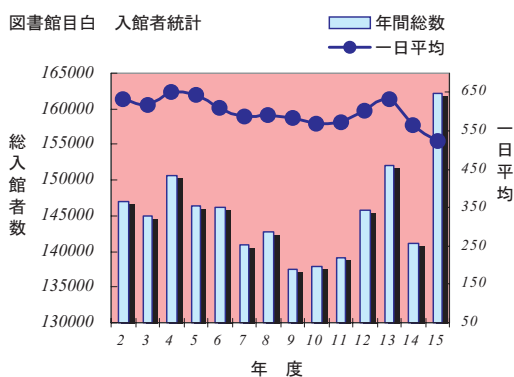
西生田キャンパスでは、全学年が揃うのが平成5年であること、および両方のキャンパスではそこに所属する人数が異なることがその差となっていることは、改めて指摘するまでもない(表1)。

グラフは表をもとに起こしたものである。極端なグラフの変化は見て取れないものの、平成14年度に若干の落ち込みが見られる。これは同年度より図書館に入館チェックシステムが導入されたことが要因と考えられる(グラフ1)。

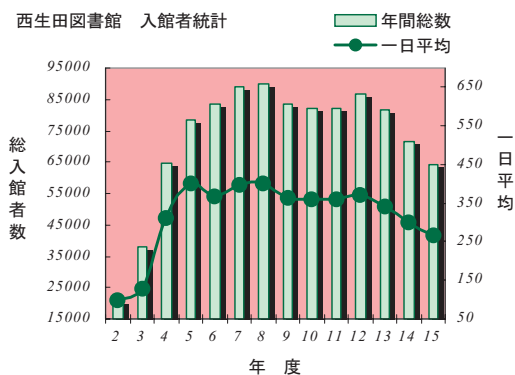
年度	目白図書館		西生田図書館	
	入館者数	一日平均	入館者数	一日平均
2	147001	631	20674	98
3	144930	619	38129	128
4	150542	652	64661	311
5	146469	643	78311	400
6	146198	610	83721	369
7	140921	588	89086	398
8	142825	591	89918	400
9	137409	585	83432	363
10	137884	570	82294	360
11	139116	571	82175	359
12	145756	603	86746	373
13	152151	632	81445	343
14	141166	565	71697	300
15	162224	523	64179	266

表1：入館者数の推移

図書館目白 入館者統計



西生田図書館 入館者統計



グラフ1：年間の入館者数と一日平均の推移

2. 図書の貸出および移送統計

次に、資料の動きとして、目白および西生田それぞれの図書館における図書の貸出冊数、および目白と西生田との間での資料の移動数と二つの面から捉えてみる。

2. 1. 図書の貸出冊数

図書館での利用者サービスの大きな一つの柱である図書の貸出を、統計からとらえてみる。表は、

それぞれの図書館での貸出冊数を一覧にまとめたものである(表2.1)。また、二つのグラフは、西生田図書館が開館して以降のそれぞれの図書館における貸出冊数である(グラフ2.1)。

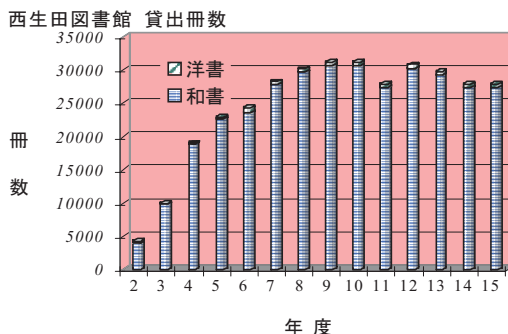
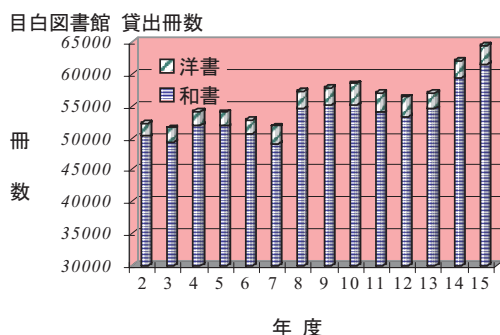
分析に入る前に前提として、現時点では、両図書館ともすでに収容量の限界にあり、ある基準を設けた上で蔵書の一部を業者に委託管理している。現在図書館にて直接管理されている資料は貸出で利用される傾向が強いといえよう。

まず、目白図書館における統計に目を向けると、グラフを見る限りは、特に顕著な動きは見られないものの、全般的には緩やかに増加傾向であるといえる。それでも収容分の資料で充分にまかなわれているとは言えず、単純な利用増のみならず、委託管理分の利用も考慮に入れておかねばならないことは、実際の利用者への対応から感じるところである。

次に西生田図書館の統計を見てみよう。目白図書館の緩やかな増加に比べて量的には落ちてきていると見て取れる。だが、西生田図書館では、目白図書館より数年遅れて委託管理が開始されていることを考えると、今後の傾向は目白と同じようになることが予想される。

年度	目白図書館			西生田図書館		
	和	洋	合計	和	洋	合計
2	50250	2027	52277	4142	167	4309
3	49394	2201	51595	9857	167	10024
4	52022	2147	54169	18861	182	19043
5	51819	2182	54001	22670	277	22947
6	50736	2075	52811	23664	664	23998
7	49129	2706	51835	27848	377	28225
8	54551	2786	57337	29649	468	30117
9	55251	2652	57903	30660	507	31167
10	55199	3313	58512	30588	506	31094
11	53958	3046	57004	27345	497	27842
12	53356	3062	56418	30135	652	30787
13	54538	2466	57004	29284	460	29744
14	59416	2697	62113	27483	426	27909
15	61583	2893	64476	27372	527	27899

表2.1：図書貸出冊数の推移



グラフ2.1：年間の図書貸出冊数の推移

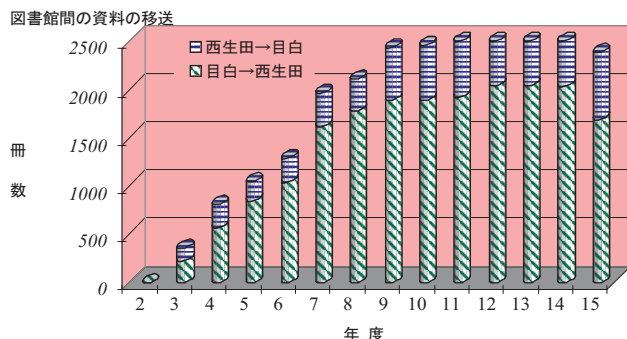
図書館業務システムが導入されるに伴い目録検索がキャンパス内でオンライン化され、図書館という場所に出向かずとも、居ながらにどのような資料を所蔵しているかが検索できるようになった。さらに近年のインターネットの普及は、キャンパスという枠を超えて、設備さえ整えばまさに自宅であっても、目録検索が可能となった。検索の場所が図書館に限定されなくなる一方、複数の利用者が同時に目録検索ができることも、資料へのアクセスの前提となる資料検索をささえる一つの要因であろう。

しかし、図書館で直接手に取れる資料と、委託管理され手に取るまでに段階を踏まなければならない資料とを利用に供するにあたり、利用者には不便が生じることは、図書館としては残念である。

2. 2. 資料の移送

目白・西生田それぞれのキャンパスに図書館はあるが、もともと図書館は大学全体に対して一つの機関として機能しているため利用条件に区別は設けない。身近にある資料数としては利用者の所属するキャンパスにより差があるが、週2回キャンパス間の相互輸送を活用して、二つの図書館で所蔵している資料(図書・雑誌とも)をそれぞれの図書館で利用できるように体制を整えている

(表2.2, グラフ2.2)。



グラフ2.2: 図書館間図書移送数の推移

年度	図書		雑誌	
	目白→西生田	西生田→目白	目白→西生田	西生田→目白
2	—	—	—	—
3	223	133	36	4
4	573	240	60	11
5	843	203	242	76
6	1044	241	185	95
7	1616	349	270	82
8	1776	333	440	70
9	1889	545	400	162
10	1891	570	486	193
11	1926	645	413	209
12	2041	566	927	214
13	2040	541	749	282
14	2038	629	1000	241
15	1686	698	722	281

表2.2: 図書館間の資料の移送数

3. 複写枚数の統計

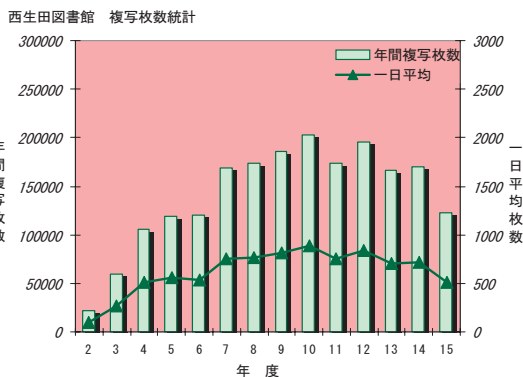
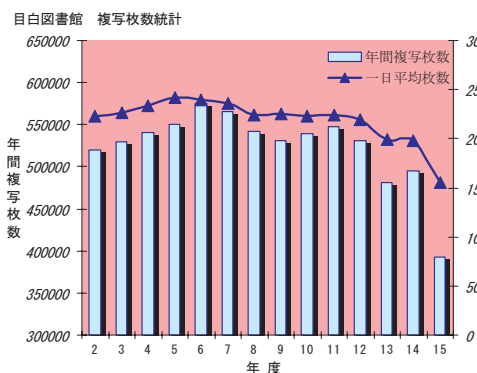
図書館の利用者サービスの別の大きな柱は、複写サービスであろう。図書館における資料の複写は、著作権法により、図書の場合、おおまかには資料の半分を超えない一部分を一人一部数の複写が許されているが、資料が増え続ける大学図書館においては、利用者一人一人が必要な資料を効率よく手に取るためには不可欠となっている。

また、資料の利用頻度は多いが、貸出のできない参考資料や逐次刊行物の必要部分を手に入れるためにも不可欠でもある。

入館者数と同様に数値的に大きな変化はここ1・2年で見られる。これも入館チェックシステムの導入により、図書館に入館する際に資格の確認がなされることに起因すると思われる。つまり、入館者が本来の利用資格者であるということであり、図書館の利用がいわゆる登録制となった現れといえよう。大学の附属図書館はもともとその在籍者に寄与するためのものであることを思い起こせば、原点に近づいたともいえる(表3, グラフ3)。

年度	目白図書館		西生田図書館	
	複写枚数	一日平均	複写枚数	一日平均
2	520413	2234	21305	101
3	529566	2264	59416	272
4	540199	2339	105487	507
5	550821	2416	118705	558
6	575366	2398	120592	531
7	565502	2357	168648	755
8	542286	2241	173442	771
9	530636	2258	186158	810
10	539757	2231	202897	887
11	547492	2244	173641	759
12	530996	2195	195512	840
13	481528	1998	166821	701
14	494933	1980	170622	715
15	392540	1552	122441	507

表3: 複写枚数の推移



グラフ3: 年間の複写枚数の推移

4. 参考業務

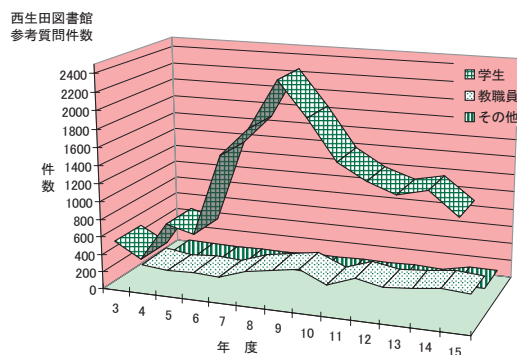
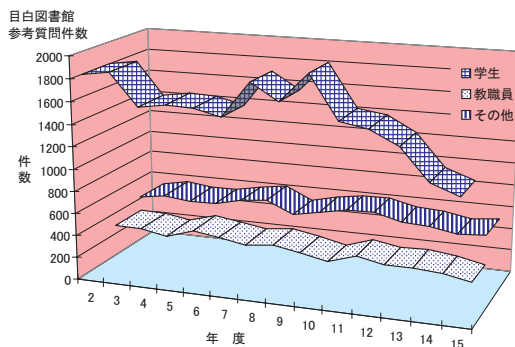
4. 1. 参考質問

資料の貸出および複写サービスが、利用者と資料そのものとを結びつけている図書館サービスの一つである。その一方、利用者を資料そのものと資料の内容へ導くものが図書館サービスの別の大きな柱の一つである参考質問への対処といえよう。

数値としての推移は、教職員からの参考質問件数が一定の数値で推移しているが、学生の質問件数はここ数年は減少の傾向にある(表4.1, グラフ4.1)。要因として、インターネット環境の整備があげられよう。図書館内のパソコンの利用は、学術情報の検索を利用条件として設置されていて、利用者が直接インターネットの世界に飛び込み自ら求める情報をディスプレイ上に表示するという流れが定着してきたのではないだろうか。昨今の情報技術教育を受けた学生は、パソコン操作に臆することなく、それぞれの経験を基にインターネット上の情報を得ようという姿勢が見られる。またそれは対人コミュニケーション不得手とする現在の大学生意識に沿うものであるのかもしれない(両図書館での件数の対比: グラフ4.2)。

年度	目白図書館				西生田図書館			
	学生	教職員	その他	合計	学生	教職員	その他	合計
2	1849	364	487	2700	—	—	—	—
3	1881	355	531	2767	570	100	17	687
4	1603	315	497	2415	394	62	2	458
5	1638	392	500	2530	828	79	4	911
6	1625	354	555	2534	744	65	0	809
7	1575	311	585	2471	1632	159	3	1794
8	1884	345	476	2705	1947	209	18	2174
9	1739	295	528	2562	2472	265	10	2747
10	1987	245	566	2798	2101	126	16	2243
11	1614	323	573	2510	1677	229	20	1926
12	1578	274	515	2367	1501	170	22	1693
13	1454	283	498	2235	1394	195	9	1598
14	1179	259	452	1890	1465	236	69	1770
15	1091	209	473	1773	1225	208	61	1494

表4.1: 参考質問件数の推移

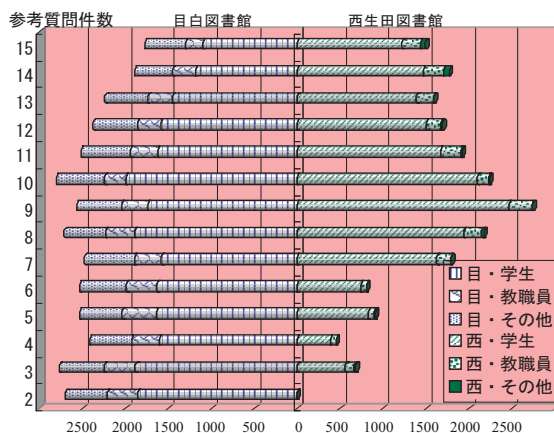


グラフ4.1: 年間の参考質問件数の推移

どちらにしろ、インターネットを経由して手に入る情報の評価は一定しておらず、また玉石混淆の状態が解消される方向性は一向に見いだせないのが現状である。利用者が、情報の専門家である図書館員の力を借りて、図書館の所蔵資料のみならずインターネット上の情報を的確にとらえていくことで、いかに研究成果を充実させていくかは今後の課題となろう。

4. 2. 相互協力

ここで取り上げる相互協力とは、大学という組織の枠を超えた図書館同士の利用者サービスであり、資料のやりとりや閲覧許



グラフ4.2: 年間の参考質問件数の推移

可などがある。

いわゆる学術的な出版物のみを取り上げたとしても、全ての出版物を一図書館に集めることは不可能なことである。とはいえ、利用者の要求は所属する大学の図書館で所蔵する資料にとどまらないことが多い。インターネット上の情報に対する評価はさておき、インターネットの環境は、大学という組織を超えて図書館同士の情報の流通においては大いに貢献してる。それぞれの大学図書館でデータをインターネット上に公開していれば情報の共有がなされ、利用に供することになる。そして利用の対象は、大学の所属という枠を超えつつある。実際に数字として現れているのが、相互協力のそれぞれの応対件数より見て取れる。

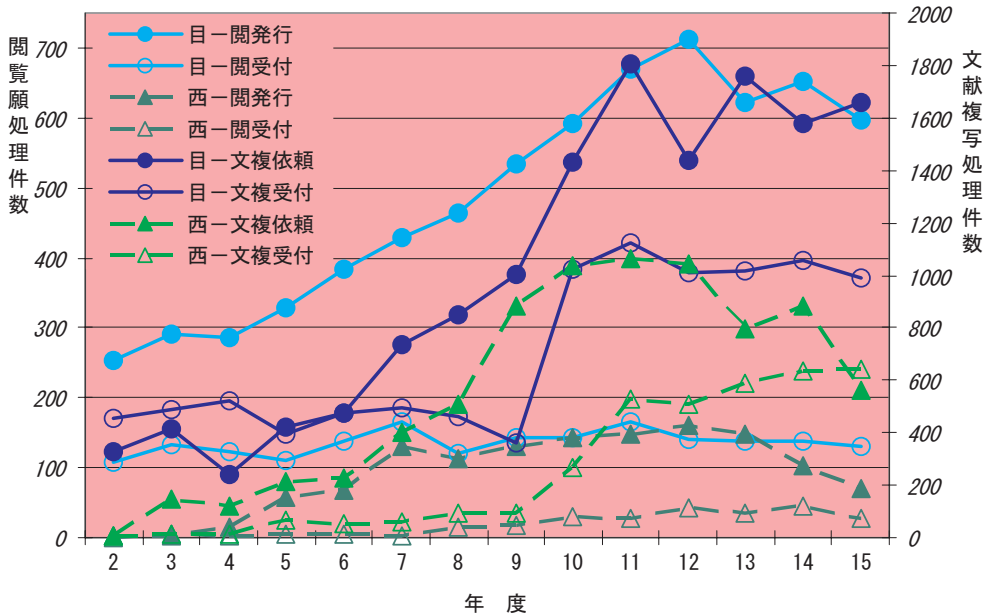
相互協力における主なサービスとして具体的なものの一つは、閲覧願という、日本女子大学に所属する者が他の大学で所蔵する資料を直接閲覧できるようにする手続きと、その逆の、他の大学に所属する者が日本女子大学で所蔵している資料を直接閲覧ができるようにする手続きである。もう一つのサービスとしては、文献複写という、他大学および当館が所蔵する雑誌論文を複写してお互いにやりとりする手続きがある(表5)。

近年、どの大学図書館に何があるのか、という情報公開が盛んに行われるようになるにつれて、グラフも右上がりに増加しているといえよう(グラフ5)。

年度	目白図書館				西生田図書館			
	閲覧願		文献複写 ()内謝絶数		閲覧願		文献複写 ()内謝絶数	
	発行	受付	依頼	受付	発行	受付	依頼	受付
2	253	109	330(0)	454(0)	3	1	5(0)	8(0)
3	291	134	412(0)	487(0)	3	4	145(0)	11(0)
4	287	122	239(0)	520(0)	16	3	123(0)	11(0)
5	328	111	422(0)	393(0)	57	5	212(0)	65(0)
6	385	139	472(35)	478(40)	67	4	225(0)	56(0)
7	428	165	734(37)	495(31)	130	3	399(0)	63(0)
8	463	121	848(58)	464(42)	112	15	508(0)	92(0)
9	534	144	1006(99)	364(25)	131	18	880(78)	94(2)
10	591	144	1434(95)	1024(132)	142	29	1039(56)	266(30)
11	669	166	1807(108)	1121(113)	148	27	1064(42)	531(25)
12	713	140	1439(33)	1007(101)	160	42	1043(28)	510(38)
13	622	137	1756(58)	1019(86)	148	35	799(43)	590(62)
14	651	137	1579(42)	1060(88)	103	45	883(34)	633(67)
15	596	131	1659(33)	987(55)	71	28	560(33)	643(71)

表5：相互協力件数の推移

相互協力



グラフ5：相互協力件数の推移

平成16年度夏期スクーリング開館について

目白キャンパスの図書館では昨年同様に24日間、今年度は8月2日（月）から8月28日（土）までが、夏期スクーリング開館でした。7月20日に東京の最高気温が39.5℃であったこと、9月21日までに真夏日が68日であったことなど、昨年の冷夏とうって変わって、記録にも記憶にも残る暑い夏の只中でした。スクーリングを受講された通信教育課程の学生方も担当された先生方も、体調管理に一層気をつけて過ごされたことと存じます。

スクーリングを受講された方もそうではない方もどうぞ左下の表をご覧ください。スクーリング受講者数・スクーリング開館用の登録者数・入館者数ともに減少傾向ですが、貸出冊数一日平均は増加傾向にあります。貸出・返却のカウンターでの質問や貸出は、例年に違わず、「レポート課題集」掲載の参考書やスクーリングの講義で紹介された資料とその関連分野の資料についてが主でしたが、館内利用にとどまらず、館外でじっくり利用された資料が多かったようです。OPACでの検索に慣れてきた方も増え、行ってみようとする書架が多方面になり、結果として貸し出される資料が増えたとも考えられます。



図書館入口での登録風景

夏期スクーリング開館の利用状況

年度	16	15	14
開館日数	24	24	30
入館者数	9,331	10,280	13,502
1日平均	389	429	451
最高	516	565	919
最低	279	277	325
受講者数	2,192	2,227	2,370
登録者数	1,064	1,098	1,181
1日平均	45	46	40
貸出冊数	4,410	4,137	4,762
1人当たり	4	4	4
1日平均	184	173	159
最高	334	277	286
最低	96	105	61
貸出日数	24	24	30
複写枚数	37,057	33,523	56,931
1日平均	1,545	1,397	1,898
一般学生・教職員	1,925	1,979	2,373
その他の貸出	81	83	79

右下の表もご覧ください。昨年度からスクーリング生・その他の、参考係の利用が増えました。皆様も、例えば図書館ホームページからリンクするOnline Journalを使いこなす方法や学外機関（他大学図書館など）所蔵資料の利用方法の質問など、階段隣りにある参考デスクにどうぞお立ち寄りください。

なお、ご自分のレポートのプリントアウト希望が図書館に多く寄せられましたが、これはお受けできません。

また、館内の複写機では当館所蔵の資料以外は複写できませんのでご注意ください。

（館員・閲覧係 田代陽子）

参考係利用状況（質問処理件数）

年度（日数）	16 (20)	15 (20)	14 (20)
一般学生・教職員	76	84	95
スクーリング生・その他	82	97	49
合計	158	181	144
1日平均	7.9	9.1	7.2

編集後記 2004年6月23日で目白の図書館は、開館40周年を迎えています。今号は、ささやかですがその記念特集号としました。図書館だよりは、図書館のホームページでもご覧いただけます。（www.lib.jwu.ac.jp/publish.html）巻頭のカットは、展示用ポスターなどでも腕前を発揮されている橋本香織館員が作成してくださいました。平成16年度図書館だより編集委員：田口令子、中島和子、武田史、鈴木学、大沼真美（田口）

訂正

「統計で見る図書館サービスの歩み」の記事中、誤りがございましたので訂正を致します。

訂正箇所

・表 5

「相互協力件数の推移」

平成15年度西生田図書館文献複写依頼件数の数値

560 (誤)

860 (正)

・グラフ 5

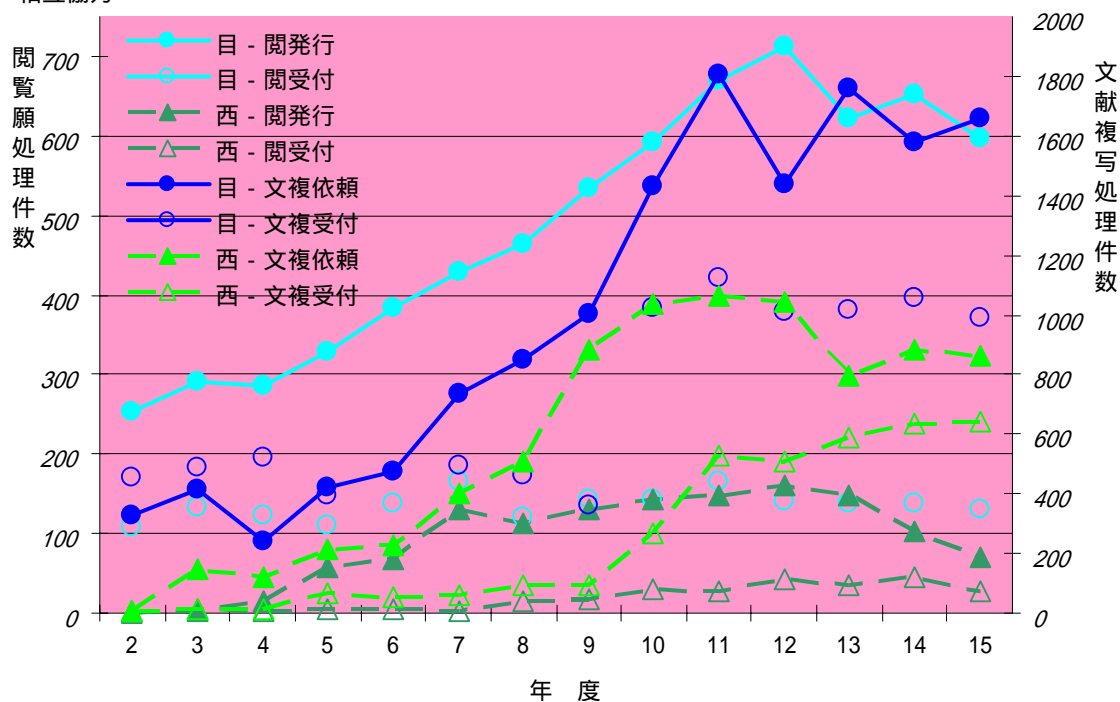
「相互協力件数の推移」

表5の訂正に伴うグラフの当該年度箇所の変更

年度	目白図書館				西生田図書館			
	閲覧願		文献複写 (内謝絶数)		閲覧願		文献複写 (内謝絶数)	
	発行	受付	依頼	受付	発行	受付	依頼	受付
2	253	109	330(0)	454(0)	3	1	5(0)	8(0)
3	291	134	412(0)	487(0)	3	4	145(0)	11(0)
4	287	122	239(0)	520(0)	16	3	123(0)	11(0)
5	328	111	422(0)	393(0)	57	5	212(0)	65(0)
6	385	139	472(35)	478(40)	67	4	225(0)	56(0)
7	428	165	734(37)	495(31)	130	3	399(0)	63(0)
8	463	121	848(58)	464(42)	112	15	508(0)	92(0)
9	534	144	1006(99)	364(25)	131	18	880(78)	94(2)
10	591	144	1434(95)	1024(132)	142	29	1039(56)	266(30)
11	669	166	1807(108)	1121(113)	148	27	1064(42)	531(25)
12	713	140	1439(33)	1007(101)	160	42	1043(28)	510(38)
13	622	137	1756(58)	1019(86)	148	35	799(43)	590(62)
14	651	137	1579(42)	1060(88)	103	45	883(34)	633(67)
15	596	131	1659(33)	987(55)	71	28	860(33)	643(71)

表5：相互協力件数の推移

相互協力



グラフ5：相互協力件数の推移